

社会体育指導者に関する研究

——とくに求められる能力・知識・指導行動について——

宇土 正彦・八代 勉・中村 平・佐藤 勝弘*

A Study on the Required Knowledge, Skills and Ability for Sports Leaders in Community

Masahiko UDO, Tsutomu YATSUSHIRO, Taira NAKAMURA
and Katsuhiko SATO*

It has been generally pointed out that leadership training, as well as its recruitment, is one of the most important ways to promote community sports services. However, there have been received little attention to the study on sports leaders in community from the view point of sports administration, although there have been a few studies in the field of sport sociology. The present purpose of this study, then, is to clarify the qualification of sports leaders in community from the stand point of sports management.

In order to analyze the required or desirable knowledge, skills, and ability for sports leaders in community, 2500 questionnaires were distributed to the adult respondents in various communities which were randomly selected.

The results obtained in this study were as follows:

- 1) Regarding sex differences, women had stronger demand for sports leaders than men.
- 2) There was a significant relation between age and the need for skill-oriented instruction. Young people showed a strong need for this type of leadership.
- 3) The persons who belong to sports clubs, especially athletic clubs, also showed a strong need for skill-oriented instruction. Contrast to this group, the persons who participated only in sports events or sports clinic courses showed a strong demand for enjoyable or fitness-oriented instruction. Voluntary or free participants in sports programs had little demand for leadership.
- 4) There was a considerable difference of sports leader's image between participants in sports and their leaders. The former showed a strong demand for skill-oriented instruction or one for fitness improvement, while the latter did for the instructional methods or knowledge of sports rules.

1. 緒言

地域におけるスポーツの振興を計る方策として施設の整備やスポーツクラブの育成とならんで指導者及び指導体制の充実が挙げられていることが多い。筆者らは体育事業論の立場からみて、施設やスポーツクラブの問題と指導者問題は同一次元

で問題にすることには異論はあるが、指導者を住民のスポーツ需要の高まりに呼応して充実していくことは重要なことであり、各体育事業に応じた指導者の求められる姿を描くことは、体育経営や行政の立場からは極めて必要かつ緊急な要件と考える。

ところで、社会体育指導者については、その概

* 山口大学 (昭和53年度筑波大学内地研究員) (Yamaguchi University, Faculty of Education)

念や体系（分類）が現在のところ必ずしも明確にされていない。

宇土¹⁾は、体育の経営や指導に携わる者を体育管理者と包括的にとらえた上で、経営レベル（managerial level）で働く者と、指導のレベル（technical level）で働く者とに分けることの必要を述べてきたが、一般的には、経営レベルで体育事業に従事する者と直接運動者と接して指導にあたる者という異ったレベルの者を同一レベルで扱いがちである。

たとえば、金崎²⁾は、「社会体育指導者の指導行動は、指導者の決意的な行動そのものではなく社会体育システムにおけるスポーツ活動の構成要素、すなわち単にスポーツ活動が展開される場面だけでなく、その背後にあるスポーツの組織や体制等も含めた諸要素に対する対応関係として認識しなくてはならない」としている。このようなとらえ方は、指導行動の内に、経営管理的行動を包含したとらえ方であるといえる。我々は、経営者・管理者と区別して指導者をとらえたい。

このようなとらえ方は Ball¹⁾ 等のとらえ方とも一致する。彼のいう face-to-face leadership をここでは問題にしようとするわけである。

ところで、指導者に関する研究は、そのアプローチの内容や方法によって、心理学、社会学、経営学等、様々な方向から研究されるべきと考えるが、我々の立場は体育の経営や行政の立場からの研究であり、国や地方公共団体が指導者の充実を考える際に役立つべき知見を見出すことに重点をおいている。

本研究の究極的なねらいは、社会体育指導者の養成や研修のためのカリキュラム編成のための基礎を与えたり、指導者の体制を充実していくための方途を見出すことに向けられているが、そのための第一段階として、社会体育指導者に求められる指導の方法や指導者の能力・知識が、運動者の属性によってどのように異ってくるのかを明らかにしようとした。

すなわち、同じく社会体育指導者といっても、その求められる能力や知識、指導性等は運動者の性・年齢・運動生活によって異ってくるものであらうと考えたからであり、得られた結果は、指導

者の養成 program のあり方、指導者の適切な配置のために、一つの示唆を与えるものと考ええる。

II. 関係文献

社会体育の指導者に関する研究は、近年かなりの数をみることが出来るようになってきたが、本格的な研究はこれから益々行なわれる必要があろう。これまでの研究での主たるテーマや内容を見ると、制度的に確立されている体育指導委員、新しい養成・認定制度により数を増してきたスポーツ指導員やスポーツトレーナーなど、具体的な名称を社会的に認められている特定の指導者群に焦点をあてて、その活動状況や社会的属性などの分析を行っている研究が多く、社会体育の指導者に求められる資質をとりあげた研究は極めて少ない。

一方、社会体育指導者の概念や基本的役割や機能あるいは分類論を展開しているものもみられる。

山本⁷⁾らは、社会体育の普及発展にとって、社会体育指導者は、どのような役割・機能を果たすべきかを考察した上で、現在の活動状況等の分析から、新しい指導者像を描いている。

取りあげた指導者が、体育指導委員、スポーツ指導員、スポーツ少年団指導者等、現存する特定の指導者に限定されており、各々の名称を与えられた指導者がどのような働きをすべきかを明らかにしているが、運動の場に応じた指導者のあり方については触れていない。

金崎²⁾は、日本体育協会の養成・認定したスポーツ指導員の指導活動について、活動内容の実態を明らかにした上で、指導行動を規定する要因を社会的要因、主体的要因、環境的要因に分けて、指導行動との関係を分析している、指導行動の内容を、物的条件や組織、プログラム、住民に分けているが、果して指導行動といえるか、むしろ経営・管理行動として区別した方がいいような観を受けるが、研究の主題は、指導行動の要因分析におかれている点から考え、示唆に富む研究としてあげられる。

III. 研究の方法

社会体育指導者に求められる能力や知識あるいは指導方法や内容は、指導の対象たる運動者によって異ってくるものと考え。宇土はこれまでに、各体育事業に応じて指導者は異なるべきであることを主張してきたが、本研究では、運動者の調査によって確かめようとした。

まず回答者をその運動生活によって、クラブに入っている者（以下C運動者）、スポーツのプログラムに参加して運動している者（以下P運動者）、公共体育施設や学校開放等で自由に（個人的に）運動している者（Ae運動者）及び近くの空地や公園などで個人的に運動している者（以下Av運動者）、殆んど運動らしいことをしていない者（以下S運動者）の5群に分け、指導者の必要性、指導方法や内容、指導者に求める能力や知識、求める指導者像にどのような差異がみられるかを分析した。さらに、C運動者についてはその活動への実質性・形式性の視点から、実質的に活動しているクラブメンバー、（その程度によってCa. Cbに区分）と形式的メンバー（Cc）との間の差、並びに、クラブの活動目標に着目して、対外的な試合を目指す競技的なクラブ（以下Athletic Club 略して Ath. C）と、仲間との楽しみを目的とするレクリエーション的クラブ（以下Recreational Club 略して Rec. C）、健康や体力の維持向上を第一の目的とするトレーニング的クラブ（Training Club 略して Tra. C）の三つのタイプ

にみられる指導者に対する意義の差異を明らかにしようとした。

さらに、指導者と運動者との間にみられる指導者像に如何なる差異がみられるかについても分析を加えている。

調査の方法

運動者用及び指導者用の二種類の調査票を作成し、大阪府 Ib 市、愛知県 Ic 市、神奈川県 Hi 市 Ha 市、千葉県 M 市、茨城県 T 市、S 村において体育指導委員の協力を得て質問紙法による調査を実施した。なお、今回は、地域別の分析は除外している。

分析に用いた標本数は、運動者が男子1078名、女子1538名、指導者が428名（Ic市のみ）である。調査は昭和53年3月に実施した。

IV. 結果と考察

1. 指導者の必要性

ほとんどの運動者（男子84.7%，女子95%）は、指導者が、「1. いつもいてほしい」あるいは、「2. 必要が生じた時にいてくれればよい」と回答し、指導者の必要性を感じている。（表1）

これを性別でみると、男子が「必要が生じた時に」とやや消極的な必要感であるのに対し、女子は、「いつもいてほしい」と強い必要感を半数以上がもち、性別による指導者に対する必要感の違いが指摘できる。

Table 1 The demand for sports leaders (by sex and age)

sex	level of the demand	age		20~40		25~29		30~39		49~49		50~59		60~		Total	
		f · %															
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
male	always	45	34.1	37	20.7	77	22.9	86	29.7	28	29.2	15	33.3	288	26.7		
	if necessary	79	59.8	124	69.3	219	65.2	139	47.9	45	46.9	19	42.2	625	58.0		
	unnecessary	8	6.1	16	8.9	32	9.5	58	20.0	17	17.7	8	17.8	139	12.9		
	N. A.	0	0	2	1.1	8	2.4	7	2.4	6	6.3	3	6.7	26	2.4		
	Total	132		179		336		290		96		45		1078			
female	always	50	32.9	56	45.9	385	51.7	216	58.4	43	43.0	20	40.8	770	59.1		
	if necessary	88	57.9	63	51.6	337	45.2	141	38.1	44	44.0	17	34.7	690	44.9		
	unnecessary	9	5.9	3	2.5	16	2.1	5	1.4	7	7.0	6	12.2	46	3.0		
	N. A.	5	3.3	0	0	7	0.9	8	2.2	6	6.0	6	12.2	32	2.1		
	Total	152		122		745		370		100		49		1538			

Table 2 The need for sports leaders (by types of sports involvement)

sex \ age		f · %		C		P		A _E		A _V		S	
		need		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
male	always			202	34.7	21	47.7	8	18.6	13	12.4	19	28.8
	if necessary			298	51.2	17	38.6	28	65.1	66	62.9	32	48.5
	unnecessary			68	11.7	6	13.6	6	14.0	21	20.0	13	19.7
	N. A.			14	2.4	0	0	1	2.3	5	4.8	2	3.0
	Total			583		44		43		105		66	
female	always			470	64.5	186	61.2	27	46.6	19	24.7	67	38.5
	if necessary			242	33.2	112	36.8	26	44.8	46	59.7	93	53.4
	unnecessary			6	0.8	3	1.0	5	8.6	10	13.0	12	6.9
	N. A.			11	1.5	3	1.0	0	0	0	2.6	2	1.1
	Total			729		304		58		77		174	

Note ; C : sports club members

P : participants in the programs such as various sports classes

A_E : general users of public sports facilities or school facilities opened to the public

A_V : general users of open spaces at residential areas, back yards, lots or streets

S : non-participants, non-users (those who do not take part in any sports or recreation activity)

Table 3 The leadership expected by club members from the view point of the degree of their participation (%)

items \ degree of participation		sex			male			female		
		degree of participation			Ca	Cb	Cc	Ca	Cb	Cc
demand	always				37.9	34.3	23.3	67.6	61.4	22.7
method of instruction	directive				33.1	22.0	26.7	59.4	52.3	27.3
contents of instruction	skill-oriented				26.2	25.9	3.3	32.3	21.8	18.2
	fitness-oriented				20.5	18.5	23.3	20.1	23.1	27.3
	enjoyment-oriented				28.1	29.0	10.0	35.1	30.1	36.4
	knowledge-oriented				18.0	13.6	3.3	19.0	13.1	9.1
	safety-oriented				21.5	22.7	20.0	25.8	22.2	4.5
image to the leaders	coach				23.0	27.3	6.7	31.9	27.0	36.4
	organizer				36.6	36.7	50.0	33.4	33.3	36.4
	trainer				11.4	8.7	13.3	9.1	12.0	13.6
	planner				1.9	3.5	6.7	0.4	2.6	0
	theorist				6.9	6.3	3.3	3.8	2.8	0

Note ; Ca : always

Cb : sometimes

Cc : rarely

また、年齢層別では、男子では、その顕著な差異が認められないが、女子では、20才代が「必要が生じた時に」を第1位にあげているのに対し、30才代及び40才代では、「いつもいてほしい」を

あげ、年齢層別の指導者に対する必要感も異なることが指摘できる。

これは、女子の20才代と30～40才代の運動経験や運動の行い方、あるいは運動環境の違いから生

ずるものと推察できるが、今後さらに究明される必要がある。

次に、運動生活別(表2)でみると、C運動者、AE、AV運動者は、「必要が生じた時に」に半数以上が回答しているのに対し、P運動者は、約半数近くが、「いつもいてほしい」と回答し、指導者依存の傾向が強い。またAV、S運動者のうち、約20%が「3. その必要はない」と回答し、運動生活のタイプの違いによる指導者の必要性の差異が考察できる。

さらに、等しくC運動者であっても、実質的C運動者(Ca、Cb)と形式的C運動者(Cc)との違いは、表3より、女子の実質的C運動者が形式的C運動者にくらべ、かなり強く指導者を求めていることによってみられる。

表4より、クラブの活動目標の違いによる必要感の顕著な差異は認められないが、Rec.Cよりも

Ath.C及びTra.Cの運動者のほうが、やや強く必要性を感じている傾向がある。

以上のことから、指導者への必要惑は、性、年齢、運動生活別で異なっていることが考察でき、強く必要性を求めている運動者と、必要が生じた時に求める運動者との違いに応ずる指導のあり方が今後究明される必要がある。また、クラブ指導者についても、参加頻度や、活動目標のタイプの違いに応ずるきめこまかな指導のあり方が要求される。

2. 希望する指導方法

指導者がどのような方法で指導してくれるかについてみたのが表5である。

性別では、男子が「2. 必要な時以外は、自分たちで自主的に運動させてくれる指導」という助言的指導を望んでいるのに対し、女子は、「1. 指示や命令を与えて、ぐいぐい引っばってくれる

Table 4 The leadership expected by club members from the view point of the purpose of club activity (%)

purpose items		male			female		
		Ath. C	Rec. C	Tra. C	Ath. C	Rec. C	Tra. C
demand	always	38.2	30.1	29.9	68.9	60.8	66.8
contents of instruction	skill-oriented	47.2	20.3	16.1	52.2	24.9	21.0
	fitness-oriented	17.9	20.1	33.6	13.3	21.8	40.8
	enjoyment-oriented	25.2	31.8	21.2	32.2	36.3	31.3
	knowledge-oriented	18.7	15.8	9.5	28.9	13.9	15.4
	safety-oriented	21.1	25.8	22.6	17.8	21.8	27.9
knowledge and ability	nutrition	11.4	11.9	14.6	3.3	9.7	32.9
	sports-skills	69.9	45.6	48.9	75.6	59.9	43.0
	sports-rules	38.2	40.7	25.5	47.8	34.4	23.1
	physiology	8.1	11.7	16.1	2.2	10.4	28.9
	physical-fitness	42.3	43.6	59.1	38.9	44.9	65.3
	teaching method	39.8	33.8	38.0	35.5	33.7	33.2
	human relations	46.3	63.9	58.4	57.8	66.7	43.2
	planning	18.8	20.3	11.7	10.0	10.4	8.0
image to the leaders	management	10.6	9.7	10.2	7.8	5.5	7.4
	coach	34.1	17.8	19.7	48.9	26.0	23.3
	organizer	26.0	45.3	30.7	24.4	40.7	27.6
	trainer	8.9	9.2	17.5	2.2	8.4	24.4
	planner	3.3	3.2	2.2	0	1.3	2.1
	theorist	6.5	4.9	7.3	3.3	4.0	2.4

Table 5 The expected method of instruction (by sex and age)

sex \ method		age		20~24		25~29		30~39		40~49		50~59		60~		Total	
		f · %		f		f		f		f		f		f		f	
male	directive	37	28.0	37	20.7	83	24.7	61	21.0	19	19.8	9	20.0	246	22.8		
	suggestive	92	69.7	133	74.3	220	65.5	190	65.5	56	58.3	19	42.2	710	65.9		
	non-directive	3	2.3	6	3.4	20	6.0	24	8.3	17	17.7	13	28.9	83	7.7		
	N. A.	0	0	3	1.7	13	3.9	15	5.2	4	4.2	4	8.9	39	3.6		
	Total	132		179		336		290		96		45		1,078			
female	directive	43	28.3	60	49.2	399	53.6	171	46.2	29	29.0	17	34.7	719	46.7		
	suggestive	100	65.8	57	46.7	320	43.0	162	43.8	47	47.0	20	40.8	706	45.9		
	non-directive	7	4.6	4	3.3	10	1.3	13	3.5	15	15.0	5	10.2	54	3.5		
	N. A.	2	1.3	1	0.8	16	2.1	24	6.5	9	9.0	7	14.3	59	3.8		
	Total	152		122		745		370		100		49		1,538			

Table 6 The expected method of instruction (by types of sports involvement)

sex \ method		participants		C		P		A _E		A _V		S	
		f · %		f		f		f		f		f	
male	directive	158	27.1	16	36.4	10	22.7	16	15.2	14	21.2		
	suggestive	394	67.7	20	45.5	30	68.2	68	64.8	44	66.7		
	non-directive	25	4.3	6	13.6	3	6.8	13	12.4	5	7.6		
	N. A.	5	0.9	2	4.5	0	0	8	7.6	3	4.5		
	Total	582		44		43		105		66			
female	directive	401	55.0	155	51.0	30	51.7	23	29.9	66	37.9		
	suggestive	311	42.8	144	47.4	26	44.8	43	55.8	84	48.3		
	non-directive	6	0.8	3	1.0	1	1.7	9	11.7	24	13.8		
	N. A.	11	1.5	2	0.7	1	1.7	2	2.6	0	0		
	Total	729		304		58		77		174			

Note ; C : sports club members

P : participants in the programs such as various sports classes

A_E : general users of public sports facilities or school facilities opened to the public

A_V : general users of open spaces at residential areas, back yards, lots or streets

S : non-participants, non-users (those who do not take part in any sports or recreation activity)

指導」という強い指導を望み、前項「必要性」と同様に、女子の指導者依存の傾向が指摘できる。

年齢層別では、年代が高まるにつれ、「強い指導」や「助言的指導」は減少し、「3. いつでも自分たちに好きなように運動させてくれる指導」という方法を望む傾向がみられる。

運動生活別（表6）では、どのタイプの運動者

も「助言的指導」を第1位にあげ、ほぼ同じ傾向であるが、「強い指導」についてみると、P運動者が最も多く望んでおり、前項「必要性」と同様に、指導者依存の傾向を示している。

また、クラブ参加頻度からみると（表3）、女子でみられるように、実質的C運動者と形式的C運動者との間に差が認められ、等しくC運動者で

Table 7 The desirable contents of instruction (by sex and age)

sex	contents	age		20~24		25~29		30~39		40~49		50~59		60~		Total	
		f · %															
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
male	skill-oriented	38	28.8	54	30.2	60	17.9	30	10.3	10	10.4	5	11.1	197	18.3		
	fitness-oriented	28	21.2	40	22.3	92	27.4	71	24.5	22	22.9	11	24.4	264	24.5		
	enjoyment-oriented	48	36.4	53	29.6	101	30.1	63	21.7	20	20.8	6	13.3	291	27.0		
	knowledge-oriented	20	15.2	28	15.6	52	15.5	29	10.0	7	7.3	6	13.3	142	13.2		
	safety-oriented	29	22.0	34	19.0	86	25.6	68	23.4	21	21.9	10	22.2	248	23.0		
	Total	132		179		336		290		96		45		1,078			
female	skill-oriented	38	25.0	38	31.1	183	24.6	56	15.1	4	4.0	2	4.1	321	20.9		
	fitness-oriented	32	21.0	44	36.1	201	27.0	115	31.1	26	26.0	9	18.4	427	27.8		
	enjoyment-oriented	56	36.8	54	44.3	260	34.9	112	30.3	24	24.0	10	20.4	516	33.6		
	knowledge-oriented	15	9.9	20	16.4	105	14.1	42	11.4	8	8.0	4	8.2	194	12.6		
	safety-oriented	23	15.1	26	21.3	195	26.2	84	22.7	23	23.0	7	19.3	358	23.3		
	Total	152		122		745		370		100		49		1,538			

Table 8 The desirable contents of instruction (by types of sports involvement)

sex	contents	participants		C		P		A _E		A _V		S	
		f · %											
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
male	skill-oriented	146	25.1	6	13.6	7	16.3	6	5.7	3	4.5		
	fitness-oriented	118	20.3	18	40.9	11	25.6	28	26.7	35	53.0		
	enjoyment-oriented	163	28.0	7	15.9	13	30.2	31	29.5	19	28.9		
	knowledge-oriented	86	14.8	6	13.6	4	9.3	11	10.5	9	13.6		
	safety-oriented	126	21.6	16	36.4	10	23.3	24	22.9	23	43.8		
	Total	582		44		43		105		66			
female	skill-oriented	221	30.3	38	12.5	11	19.0	6	7.8	22	12.6		
	fitness-oriented	168	23.6	123	40.5	14	24.1	24	31.2	68	39.1		
	enjoyment-oriented	254	34.8	91	29.9	22	37.9	31	40.3	73	42.0		
	knowledge-oriented	122	16.7	36	11.8	5	8.6	7	9.1	13	7.5		
	safety-oriented	167	22.9	99	32.6	10	17.2	16	20.8	42	24.1		
	Total	729		304		58		77		174			

Note ; C : sports club members

P : participants in the programs such as various sports classes

A_E : general users of public sports facilities or school facilities opened to the public

A_V : general users of open spaces at residential areas, back yards, lots or streets

S : non-participants, non-users (those who do not take part in any sports or recreation activity)

あっても、実質的な運動者のほうが、強い指導性を望むことが考察できる。

以上のことから、指導のしかたも、前項同様に、性、年齢、運動生活の違いに応ずる方法が究明さ

れなければならないし、クラブ指導に対しても、その指導のあり方が再検討されなければならないであろう。

3. 指導者に期待する指導内容

運動者が指導者にどのような内容の指導を期待しているかについてみたのが表7、表8である。

表7より性別による違いは、ほとんど認められず、男女共に、第1に「3. 運動を楽しませてくれる指導」をあげ、次いで、「2. 健康、体力づくりの指導」、「5. 運動の安全な行い方の指導」「1. 運動が上手になる指導」、最後に、「4. 運動についての知識の指導」をあげている。

年齢層別では、どの年代も等しく、「運動の楽しみの指導を期待しているが、20才代では、「運動が上手になる」という技術的内容の指導をかなり強く期待している。一方、30才代、40才代と年齢が高まるにつれ、「健康、体力づくり」や「運動の安全な行い方」の指導内容を期待している。

運動生活別(表8)で、それぞれのタイプが、上位にあげているのをみると、C運動者は、「運

動の楽しみ」「運動が上手になる」という内容をあげているのに対し、P運動者は、まず、「健康、体力づくり」をあげ、次いで、「運動の行い方」をあげている。そして、A及びS運動者は、「運動の楽しみ」「健康体力づくり」という内容をあげ、運動生活のタイプの違いで、指導者に期待する指導内容が異なっていることが考察できる。

また、「運動の知識」については、いずれの運動者においても、他の項目にくらべ少いが、CやP運動者には、幾分期待していることもいえる。

次に、クラブ参加の頻度でみると(表4)、実質的C運動者、形式的C運動者ともに、「運動の楽しみ」の内容を期待しているが、「運動が上手になる」内容については両者で差異が認められ、等しくC運動者であっても、参加頻度の違いにより、技術的指導を期待する程度が異なることが考

Table 9 The expected knowledges, skills, and abilities for sports leaders (by sex and age)

sex	knowledge and ability	age		20~24		25~29		30~39		40~49		50~59		60~		Total	
		f. %															
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
male	nutrition	18	13.6	23	12.8	45	13.4	58	20.0	31	32.3	18	40.0	193	17.9		
	sports skills	89	67.4	99	55.3	156	46.4	100	34.5	22	22.9	8	17.8	474	44.0		
	sports rules	36	27.3	66	36.9	116	34.5	94	32.4	22	22.9	6	13.3	340	31.5		
	physiology	20	15.2	20	11.2	50	14.9	64	22.1	29	30.2	14	31.1	197	18.3		
	physical fitness	66	50.0	93	52.0	178	53.0	138	47.6	48	50.0	23	51.1	548	50.8		
	teaching method	41	31.1	57	31.8	114	33.9	87	30.0	25	26.0	9	20.0	333	30.9		
	human relations	86	65.2	98	54.7	187	55.7	159	54.8	38	39.6	25	55.6	593	55.0		
	planning	12	9.1	25	14.0	61	18.2	47	16.2	14	14.6	5	11.1	164	15.2		
	management	14	10.6	24	13.4	26	7.7	25	8.2	11	11.5	4	8.9	104	9.6		
	N. A.	1	0.8	3	1.7	11	3.3	10	3.4	6	6.3	2	4.4	43	4.0		
Total		182		179		336		290		96		45		1078			
female	nutrition	14	9.2	14	11.5	126	16.9	99	26.8	47	47.0	25	51.0	325	21.1		
	sports skills	79	52.0	69	56.6	390	52.3	155	41.9	23	23.0	9	18.4	725	47.1		
	sports rules	40	26.3	41	33.6	260	34.9	128	34.6	21	21.0	7	14.3	497	32.3		
	physiology	20	13.2	18	14.8	104	14.0	97	26.2	41	41.0	19	38.8	299	19.4		
	physical fitness	74	48.7	74	60.7	395	53.0	195	52.7	45	45.0	24	49.0	807	52.5		
	teaching method	54	35.5	45	36.9	244	32.8	94	25.4	24	24.0	10	20.4	471	30.6		
	human relations	102	67.1	71	58.2	413	55.4	194	52.4	47	47.0	27	55.1	854	55.5		
	planning	20	13.2	11	9.0	82	11.0	16	4.3	11	11.0	3	6.1	143	9.3		
	management	15	9.9	7	5.7	55	7.4	22	5.9	3	3.0	1	2.0	103	6.7		
	N. A.	2	1.3	0	0	19	2.6	15	4.1	8	8.0	3	6.1	47	3.1		
Total		152		122		745		370		100		49		1538			

Table 10 The expected knowledges, skills, and abilities for sports leaders (by types of sports involvement)

participants f · % knowledge and ability	C		P		A _E		A _V		S	
	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
nutrition	81	13.9	10	22.7	7	16.3	32	30.5	25	37.9
sports skills	304	52.2	18	40.9	20	46.5	29	27.6	24	26.4
sports rules	210	36.1	7	15.9	17	38.5	28	26.7	21	31.8
physiology	71	12.2	10	22.7	4	9.3	27	25.7	36	54.5
physical fitness	276	47.4	21	47.7	21	48.8	69	65.7	65	98.5
teaching method	209	35.9	15	34.1	14	32.6	23	21.9	27	40.9
human relations	341	58.6	17	38.6	21	48.8	54	51.4	46	69.7
planning	100	17.2	9	20.5	8	18.6	8	7.6	16	24.2
management	59	10.1	0	0	4	9.3	13	12.4	10	15.2
N. A.	23	4.0	2	4.5	3	7.3	5	4.8	0	0
Total	582		44		43		105		66	

Note ; C : sports club members

P : participants in the programs such as various sports classes

A_E : general users of public sports facilities or school facilities opened to the public

A_V : general users of open spaces at residential areas, back yards, lots or streets

S : non-participants, non-users (those who do not take part in any sports or recreation activity)

察できる。

活動目標のタイプの違いからみると（表5）各タイプが1位にあげているのは、Ath. C運動者が「運動が上手になる指導」、Rec. C運動者は、「運動の楽しみの指導」、Tra. C運動者は、「健康・体力づくりの指導」をあげ、活動目標の違いで、期待する指導内容が異なることが考察できる。

このように、運動者が指導者に指導してほしい内容は、年令や運動生活の違いによって異なるということをもまえ、それぞれに応ずる内容の指導が今後の社会体育指導において要求されるであろう。

また、クラブ指導者についても、同じC運動者として一率に指導するのではなく、参加頻度の違いや、活動目標のタイプの違いに応ずる内容の検討が必要となる。

4. 指導者に望まれる能力・知識

男女とも同様の傾向を示しており、多く望まれる能力、知識から順に、「7. 人間関係」「5. 体力の高め方」「2. 運動の技術」「3. 運動のルール」「6. 運動の教え方」……となっている。

いずれの能力も直接運動にかかわる能力であり、運営能力や個々人の運動に直接的関係のうすい知識等に関しては期待度が低くなっている。しかし期待度が低いながらも、「8. 運動行事の企画・立案・運営」に対する期待が、女子よりも男子のほうがわずかに多くなっていることは注目すべき事である。

年令層別にみても、「体力」「人間関係」に関する能力・知識は全ての年令層に共通して強く期待されているが、他の能力・知識では年令層間に差異がみられる。即ち、男子で「1. 運動と栄養についての理論」「4. からだの仕組みや働き」を期待する者は年令が高くなるにつれて多くなっている。逆に、「技術」を期待する者は年令が高くなるにつれて少なくなっており、50才以上の者では「運動と栄養」を期待する者が第三位になっている。女子は男子とほぼ同様の傾向を示しており、年令が高くなるにつれて「技術」よりも「栄養」や「からだの仕組み」を期待する者が多くみられるようになる。（表9）

これらのことを運動生活別にみる（表10）と、男子では、C, P, A_E運動者はほとんど同じよ

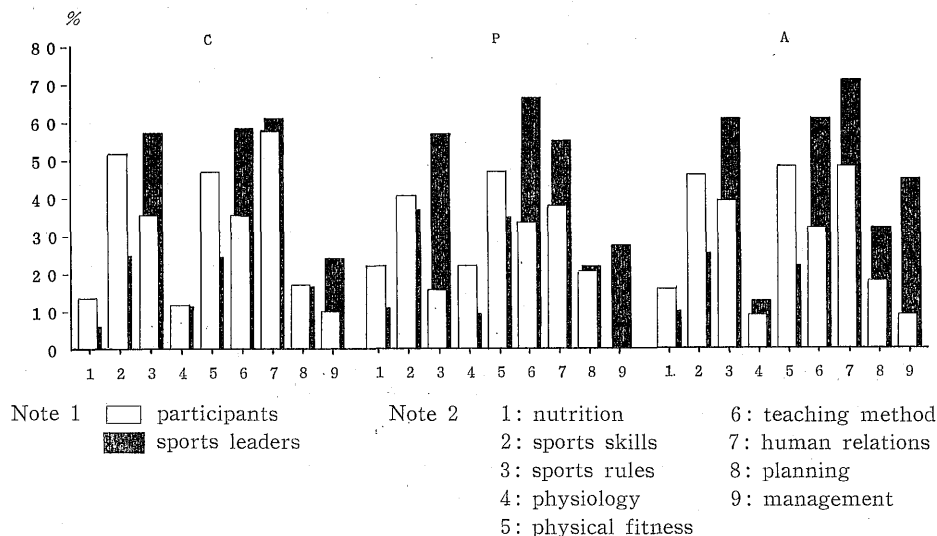


Fig. 1 The expected knowledges, skills, and abilities for sports leaders (The comparison between participants and sports leaders)

うな能力・知識（人間関係，体力，技術）を期待しているが，Av 運動者とS運動者は少し異なる傾向を示している。つまり，Av 運動者では「栄養」，S 運動者では「からだの仕組み」を指導者の能力・知識として望む者の割合が多くなっている。また，「栄養」を期待する者の割合はSが最も多く，以下Av，P，AE，Cの順となっている。また，「技術」を期待する者は多いほうからC，AE，P，Av，Sであり，「からだの仕組み」を期待する者の割合はS，Av，P，C，AE，「体力」ではS，Av，AE，P，C，「人間関係」ではS，C，Av，AE，Pの順になっており，概して，出かけて運動する者は技術面の能力・知識を，家の近くで運動している者や運動をしていない者は理論面の知識を指導者に期待しているといえる。

C運動者について，所属クラブのタイプ別にみると，女子のAth. C運動者において3番目に望まれる能力・知識が「ルール」となっている点を除けば，男女とも全てのタイプで「技術」「体力」「人間関係」が期待度の大きい能力・知識であることがわかる。それら3つの能力・知識についてさらに詳細にみると，男女とも，Ath. C運動者では「技術」を多くが期待し，Rec. C運動者では「人間関係」，Tra. C運動者では「体力」

を，それぞれ最も多くが期待していることがわかる。また，全体としての期待度は低いながらも，「からだの仕組み」を期待する者はTra. C運動者が最も多くなっており，クラブのタイプによって望まれる能力・知識に違いがあることがわかる。（表4）これらのことから，同じくC運動者といっても，その活動目標の違いにより期待する指導者の能力・知識には差異があることになり，クラブの指導にあたる者は，クラブ指導者としての能力・知識が要求されると同時に，メンバーの活動目標により指導内容をかえることが必要ということになる。

これらの能力・知識の期待度について運動者と指導者を比較（図-1）すると，次のようなことがわかる。

運動者では，程度の差はみられるにしてもC，P，A運動者とも「技術」「体力」「人間関係」の能力・知識を多くの者が望んでいるのに対し，指導者では，いずれの指導者とも「ルール」「教え方」「人間関係」を重視しており，「人間関係」に関しては運動者と指導者の期待が同傾向として表われているが，他の「技術」「体力」「ルール」「教え方」に関しては，かなりの期待度の差がみられる。特にPに関する「ルール」では運動者が

15%であるのに対し指導者は57%と、極めて大きな差となっている。また、「企画・立案」の能力に関しては、CとPでは運動者と指導者の期待度が似ているのに対し、Aではかなりの差がみられる。さらに、「9. 運動の方法や計画の立て方」の能力に対しては、指導者が期待しているほど運動者は期待していないこともわかる。

つまり、運動者がそれほど期待していない能力知識を指導者はもちたいと考えているのである。これらのことから指導者問題を考えるなら、現在の指導者がどの体育事業に向いているかは断定できないとしても、少なくとも、ある一定のワクにはまった指導者が多くみられるといえ、運動者の望む指導者になっていないといえる。

5. 望まれる指導者像

以上の項目で、いくつかの角度から運動者が望む指導者を探ろうとしたが、具体的に運動者はどのような人を指導者として期待しているのだろうか。

まず、表11によると次のことがわかる。即ち、男女とも「2. 仲間づくりなど面倒みがよく、スポーツやグループ活動の楽しさを指導する人」を

最も多くが望んでおり、男子よりも女子のほうが運動場面における実際的な指導をする指導者を望む傾向がみられる。また年令層別にみると、男子では各年令層とも「仲間づくりをする人」を最も多くが望んでおり、「1. 技術にすぐれ、積極的に実技指導をする人」を望む者は20才代に多いことがわかる。ここで30才以上（特に60才以上）にN. A. が多いが、これらの年令層では、前述第1項の指導者の必要性の項目で“必要でない”と答えた者が他の年令層に比べて多いからであろう。女子では「仲間づくりをする人」が各年令層で多く望まれているが、特に20才代前半と60才以上の者が多く望んでいる。「技術にすぐれた人」を期待する者の割合は20才代後半が最も高く、年令が高くなるにつれてその割合は低くなっている。「3. 健康・体力づくりなどについて実際的な方法を指導する人」を望む者は、他の年令層と異なり、20才代前半の者が少なくなっている。これらのことが顕著な傾向としてみられるのである。さらに男女ともに60才以上の年令層で「4. 各種スポーツ活動の企画・立案・運営などの能力に優れた人」「5. 体育・スポーツなどの理論や知識に

Table 11 The image to sports leaders expected by participants (by sex and age)

sex	sports leaders	age		20~24		25~29		30~38		40~49		50~59		60~		Total	
		f・%															
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
male	coach	40	30.3	43	24.0	60	17.9	42	14.5	18	18.8	8	17.8	211	19.6		
	organizer	42	31.8	74	41.3	108	32.1	86	29.7	29	30.2	17	37.8	356	33.0		
	trainer	13	9.9	27	15.1	33	9.8	54	18.6	15	15.6	6	13.3	148	13.7		
	planner	3	2.3	6	3.4	14	4.2	5	1.7	3	3.1	0	0	31	2.9		
	theorist	10	7.6	9	5.0	28	8.3	18	6.7	7	7.3	0	0	72	6.7		
	N. A.	24	18.2	20	11.2	93	27.7	85	29.3	24	25.0	14	31.1	260	24.1		
	Total	132		179		336		290		96		45		1078			
female	coach	31	20.4	38	31.1	189	25.4	81	21.9	14	14.0	6	12.2	359	23.3		
	organizer	7	46.1	38	31.1	265	35.6	117	31.6	33	33.0	24	49.0	547	35.6		
	trainer	12	7.9	18	14.8	102	13.7	75	20.3	18	18.0	7	14.3	232	15.1		
	planner	2	1.3	4	3.3	17	2.3	6	1.6	1	1.0	0	0	30	2.0		
	theorist	5	3.3	5	4.1	25	3.4	9	2.4	12	12.0	0	0	56	3.6		
	N. A.	32	21.1	19	15.6	147	19.7	82	22.2	22	22.0	12	24.5	314	20.4		
	Total	152		122		745		370		100		49		1538			

Table 12 The image to sports leaders expected by participants (by types of sports involvement)

sex		participants		C		P		A _E		A _V		S	
		f · %											
		sports leaders		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
male	coach	146	25.1	5	11.4	7	16.3	10	9.5	9	13.6		
	organizer	220	37.8	8	18.2	16	37.2	41	39.0	17	25.8		
	trainer	57	9.8	11	25.0	4	9.3	12	11.4	15	22.7		
	planner	17	2.9	1	2.3	1	2.3	5	4.8	3	4.5		
	theorist	37	6.4	1	2.3	3	7.0	7	6.7	5	7.6		
	N. A.	105	18.0	18	40.9	12	27.9	30	28.6	17	25.8		
	Total	582		44		43		105		66			
female	coach	235	32.7	56	18.4	12	20.7	8	10.4	29	16.7		
	organizer	260	35.7	83	27.3	21	36.2	26	33.8	97	55.7		
	trainer	72	9.9	98	32.2	8	13.8	15	19.5	24	13.8		
	planner	9	1.2	4	1.3	3	5.2	4	5.2	6	3.4		
	theorist	25	3.4	7	2.3	1	1.7	4	5.2	10	5.7		
	N. A.	128	17.6	56	18.4	13	22.4	20	26.0	8	4.6		
	Total	729		304		58		77		174			

Note ; C : sports club members

P : participants in the programs such as various sports classes

A_E : general users of public sports facilities or school facilities opened to the public

A_V : general users of open spaces at residential areas, back yards, lots or streets

S : non-participants, non-users (those who do not take part in any sports or recreation activity)

優れ、よく理解させる人」を望む者が一人もいないが、この年齢層は、主として自分が運動を行なうことに直接的な助けとなる指導者を求めていると推察できる。

また、運動生活別にみても（表12）と、男女ともP運動者は「体力づくりを指導する人」を指導者として望んでおり、他の運動生活を営んでいる者の多くは、「仲間づくりをする人」を望んでいる。ここで「仲間づくり」といっても経営的には2通りの意味があるといえる。即ち、一般に言われている「運動したい時に仲間がいないので運動しない」という場合の仲間、つまり、運動者行動の“きっかけ”となる仲間と、クラブのように組織的・継続的に運動を共にする仲間、という2つの意味である。従って、同じく「仲間づくりをする人」を多くが期待しているといっても、C運動者とA運動者やS運動者では、その具体的内容には違いがあると考えられ、その違いを今後は吟

味しながら指導者問題と取り組むことが必要であろう。

「技術指導をする人」を期待している者の割合は、A_E 運動者よりP運動者のほうが男女とも少なくなっており、本来、技術指導が中心になると考えられるスポーツ教室参加者が、A運動者ほど技術指導を期待していないのはなぜであろうか。一つは、現実にはスポーツ教室に参加している者が、“じょうずになりたい”という意識よりも“日頃の運動不足を解消し、できれば体力をつけたい”という意識をもっているために、このような結果が出たとも考えられるが、また一つには、A運動者が普段の活動で技術指導を受ける機会が少ないために技術指導に対する要求が強く出たとも考えられる。学校開放の管理指導員は指導をしないで管理だけをするのが好ましいといった見解が文部省より出されているが、この結果によれば、学校開放利用者といえども技術指導を望んでおり、学

校開放の管理指導員は指導も行なえることが必要であろうといえる。

以上のことをクラブ参加の実質性と形式性で比較したものが表3である。

男子で「技術指導をする人」を期待する者は実質的C運動者に多く、形式的C運動者にはきわめて少ない。「仲間づくりをする人」を期待している者は、わずかに形式的C運動者のほうに多くみられる。これらのことから同じくC運動者といっても、頻繁に練習に参加している者とそうでない者とでは求める指導者像に違いがみられ、現在のC運動者には大別して2通りの運動者がいることも考えられるが、その分析は別の研究を待つとして、体育経営としては形式的C運動者を実質的C運動者にする努力が必要になる。女子の場合には、運動生活の実質性～形式性の観点では求める指導者に顕著な差異はみられない。

クラブの活動目標によるタイプ別にみると、男女ともAth. C運動者は「技術指導をする人」を最も多く望んでおり、Rec. C運動者とTra. C運動者では「仲間づくりをする人」を多くが期待していることがわかる。ただ、女子は男子に比べてRec. C運動者とTra. C運動者が「技術指導をする人」を、わずかではあるが多く望んでいる。また、当然のことではあるが、「体力づくりをする人」を期待する者はTra. C運動者が最も多いことがわかる。しかし、Tra. C運動者であっても第一に望む指導者像は「仲間づくりをする人」であることは注目に値する。さらに、女子のAth. C運動者において、「仲間づくりをする人」を期待している者より「技術指導をする人」を期待している者のほうが多く、約2倍となっているが、このことは、現在あるクラブが本来の意味のクラブかそれともクラスかという議論と合わせて、今後の指導者問題では十分吟味しなければならない点であろう。(表4)

最後に、運動者がどのような指導者像を期待し、それに対して指導者がどのような指導者でありたいと考えているかを比較することにする。

(図-2)

どんな人を指導者として期待しているのかについて運動者側からみると、程度の差はあるが、Cと

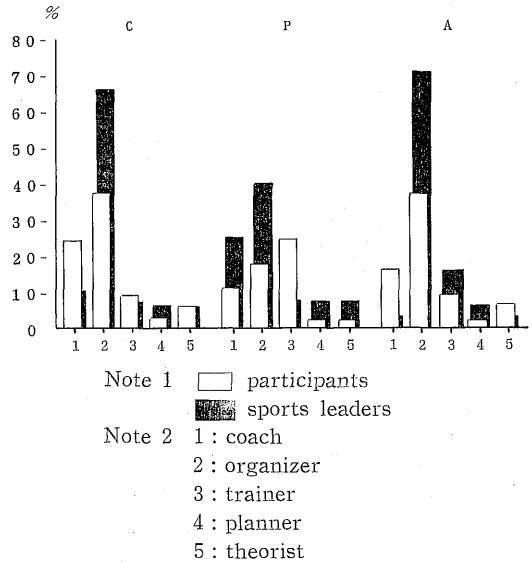


Fig 2 The image to sports leaders expected by participants (The comparison between participants and sports leaders)

Aの指導者に対して似たような姿を望んでいるが、Pの指導者に対しては「体力づくりをする人」を望んでいる運動者が最も多く、CやAと異なる傾向を示している。一方、指導者側からみると、傾向としては3つの体育事業ともにはほぼ同じであるが、CやAと比べてPの指導者は「技術指導のできる人」に多くがなりたいたと望み、「仲間づくり」を期待する者は少ないことがわかる。運動者の期待と指導者の期待を比較すると、「仲間づくり」に関しては、いずれの事業も運動者より指導者のほうがかなり多く期待しており、「技術」についてはCやAの運動者が期待するほど指導者は意識していないことがわかる。また、Pの場合には「技術」を期待する者が指導者ほど運動者には多くなく、「体力づくり」を期待する者は運動者ほど指導者には多くないこともわかる。

V. ま と め

社会体育指導者の必要性や指導内容・指導方法、指導者の具備すべき能力や知識、指導者像について、指導を受ける側の運動者がどのような対応をするかを分析したが、性・年齢はもとより、運動者の営む運動生活によってかなりの差異があるこ

とが認められた。すなわち、スポーツクラブに入っている運動者、スポーツのプログラムに参加している運動者、運動施設の開放を利用した未組織的な運動者の間に、上記項目に対する求め方が異ってきているということである。このことは、体育事業として Club Service, Program Service, Area Service の各々の Service において指導者の配備を考える場合、求められる資質や指導方法が一律にはいかないことを意味している。さらに、社会体育指導者の分類論において、体育事業論が一つの有力な観点となることをも意味している。また、指導者の指導 (Supervision) のあり方や、指導者養成プログラムのあり方に対する基礎的資料の一つにもなり得ると考える。

本研究は、社会体育指導者に関する体育経営学的立場からの基礎的研究であったが、今後検討を加えるべき課題として次の事があげられる。

(1) 研究方法については、質問紙法による調査に観察法、面接法等を加えて、事例研究的に、求められる指導者の資質、指導法等をさらに確かめていくことが必要である。

また、調査対象の選定についてもさらに吟味していくことが要求される。例えば具体的なスポーツクラブを性格やタイプに応じて、メンバーとその指導者を対応させた検討をすること、スポーツ教室や施設開放についても同様の方法で検討を加えるなどがあげられる。

(2) 指導者の資質については、さらに多くの角度

から吟味すること。

(注1) Ball 等は Recreation における Leadership を次の三つのレベルでおさえている。即ち、対面的な関係で直接指導をする (face-to-face leadership) 者のレベルと、このような指導者を監督する (supervision of face-to-face leadership) 者のレベル、及び事業に関する意志決定、企画立案、統制や調整及び評価を行なう経営管理者 (Administrative or executive leadership, where major focus is on the leading of policymaking, planning, developing, controlling, and evaluating of services) のレベルがそれである。

参 考 文 献

- 1) Edith L. Ball & Robert E. Cipriano, Leisure Services Preparation - A competency based approach. Prentice-Hall pp. 169-207. 1978.
- 2) 金崎良三, 社会体育指導者の指導行動とその規定要因に関する社会学的研究 体育学研究第23巻第1号 pp47-57. 1978.
- 3) 片山孝重 体育指導者に関する研究. 特に、地域社会の体育指導委員について, 体育学研究, 第15巻第5号 p. 174. 1971.
- 4) (財)日本体育協会 日本人のスポーツ行動の階層構造 pp68-80. 1973.
- 5) (財)日本体育協会 スポーツ指導者の実態調査報告書 1976.
- 6) 宇土正彦 体育管理学 大修館 pp42-50. 1970.
- 7) 山本英毅・中島豊雄 新しい社会体育指導者像—社会体育指導者の活動の実態と意識に関する調査結果から— 体育社会学研究 5 道和書院 pp58-83. 1976.
- 8) (財)全国体育指導委員連合, 体育指導委員の現状 1977.